

顎顔面外科学実習

Training of Oral and Maxillofacial Surgery

キーワード

- ① 顎顔面病態診断治療学
- ② 顎顔面外科学
- ③ 臨床検査・画像検査
- ④ 分子生物学的検査
- ⑤ 研究計画書

授業概要

口腔顎顔面領域に生じる様々な疾患の診断に必要な検査法を修得する。特に血液血清学的検査やCT、MRI、超音波エコー検査、シンチグラフィ、PET検査などの画像検査の解釈と診断法について修得する。また、分子生物学的検査法についてはRT-PCR、Northernblot analysis、Southernblot analysisを学び、専門的な知識・技能を修得することを目標とする。さらに、臨床研究に必要な研究倫理指針、統計手法を学ぶことにより、臨床研究の研究計画書の立案を行えるだけの研究手法を身につけることを目的として開講する。

授業科目の学修目標

口腔顎顔面領域の疾患を診断するに重要は各種臨床検査の基本・解釈・診断法について修得する。また、分子生物学的検査法についてはRT-PCR、Northernblot analysis、Southernblot analysisを学び、専門的な知識・技能を修得することを目標とする。さらに、研究計画書の立案に必要な研究倫理指針、統計手法を学ぶことを目的とする。

授業計画

- ① 画像検査実習 12コマ
CT、MRI、超音波エコー検査、シンチグラフィ、PET検査などの画像検査の解釈・診断法について教授する。
- ② 検体検査実習 12コマ
血液検査、細菌検査、病理検査手法・解釈・診断法について教授する。
- ③ 分子生物学的検査実習 12コマ
RT-PCR、Northernblot analysis、Southernblot analysisの基本的な手技を教授する。
- ④ 研究計画書作成実習 24コマ
研究倫理指針、統計手法、研究計画書立案方法を教授する。

実習担当教員 岩淵博史 鈴木健司 小林優 小澤重幸 沢井奈津子 生駒丈晴 本間義郎

教科書および参考書

より良いエビデンスを求めて 永末書店

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

教科書・参考図書の内容を十分理解すること

大学院生が達成すべき行動目標

- ① CT、MRI、超音波エコー検査、シンチグラフィ、PET検査などの画像検査の解釈・診断法について理解する。
- ② 血液検査、細菌検査、病理検査手法・解釈・診断法について理解する。
- ③ RT-PCR、Northernblot analysis、Southernblot analysisの基本的な手技を理解する。
- ④ 研究倫理指針、統計手法、研究計画書立案方法を理解する。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
0%	0%	40%	0%	0%	30%	30%	0%

評価の要点

- ・口頭試問で各講義の理解度を判定する。 $0.5\% \times 60回 = 30\%$
- ・レポートは授業計画の4項目について課題を提出する。 $10\% \times 4回 = 40\%$
- ・実技は、授業計画の4項目について総合的な能力を行動観察で判定する。 $7.5\% \times 4回 = 30\%$

理想的な達成レベルの目安

全ての評価の総合で80%以上の達成を求める。